

## 『アルケミスト 夢を旅した少年』(1994年)

パウロ・コエーリョ／著 山川 紘矢／訳  
山川 亜希子／訳 地湧社

羊飼いの少年サンチャゴは、夢を見ました。それは「アフリカの砂漠を越えたピラミッドに、少年を待つ宝が隠されている」というものでした。サンチャゴは、夢を信じて旅に出ます。そして宝を探す旅の中で、<sup>アルケミスト</sup>錬金術師から教えを授かりながら、人生とはどういうことかを学んでいきます。少年の旅を通して、自分の生き方について考えるきっかけとなる一冊です。



## 『オリент急行の殺人』(2003年)

アガサ・クリスティー／著 中村 能三／訳  
早川書房



名探偵エルキュール・ポワロは豪華な国際列車、オリент急行に乗りました。ところがオリент急行は、大雪のため山の中で停止してしまい、誰も列車から降りることも乗ることもできなくなったのです。

そんな夜、大金持ちの紳士が殺されました。殺人犯は、まだ列車の中にいるはずなのです。さっそくポワロが犯人を探し始めますが、怪しい人物はなかなか見つかりません。列車の乗客たちはいろいろな証言をしますが、聞けば聞くほど、事件はさらに複雑になっていきます。

いったい誰が、なぜ、どうやって、殺人を犯したのでしょうか。

## 『ゆめみるハワイ』(2012年)

よしもと ばなな／著 潮 千穂／写真  
世界文化社

数々の文学賞をとり、映画化された作品も多く、翻訳された著書は世界中で読み慕われている。小説だけでなく、エッセイも多数書いており、この『ゆめみるハワイ』でも作家目線で感じ取るハワイが繊細な文章で綴られている。フラのこと、大切な友人たちのこと、美しい景色だけでなく、少し淋しさを漂わせるハワイ。

ばななさんが旅のなかで感じたハワイを、地図を片手に追いかけてみませんか？



## 『森見登美彦の京都ぐるぐる案内』

(2011年)

森見 登美彦／著 新潮社

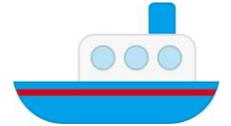
『夜は短し歩けよ乙女』や『四畳半神話大系』などで知られる森見登美彦が、自身の著書の名場面とともに京都を紹介する1冊。アニメ版四畳半神話大系でヒロイン・明石が着ていたシャツや、『聖なる急げ者の冒険』で主人公・小和田が週末に通う喫茶店など、実際に作品内に登場する場所やアイテム、レストラン、バーなどを掲載。小説に登場する場所を巡ってみませんか？随筆『登美彦氏京都をやや文学的にさまよう』も収録。



## 『とぶ船(上・下)』(2006年)

ヒルダ・ルイス／作 石井 桃子／訳  
岩波書店

ピーターは見慣れない古いお店で、船首かざりがイノシシの頭で20センチもない小さな船を見つけ、持ち金をはたいて買いました。それは魔法の船で、ピーターたち4人きょうだい<sup>キョウダイ</sup>が望む場所と時代へ連れて行ってくれるのです。4人はエジプトやウィリアム征服王時代のイギリスや北欧神話の世界などを訪れ、数々のはらはらどきどきの旅を経験します。読後、満足感いっぱいの冒険ファンタジーです。



## 『深夜特急1 香港・マカオ』(1994年)

沢木 耕太郎／著 新潮社

ある日、ふと日本を出てみようと思った。ユーラシア大陸を旅するのはどうだろう。日本を離れるにしても、この地球の大きさを知覚するための手がかりのようなものを得たいと、可能なかぎり陸地を旅することを考えた。デリーからロンドンまでバスで行くことができるのか。バスはバスでも乗合いバスだ。計画は立てない。仕事を投げ出して、旅に出た。

